

# 初等家庭科教育法における非同期型授業の学修成果と課題

村田 晋太郎\*・大本 久美子\*\*・岸田 蘭子\*\*\*

## Learning Achievements and Challenges of On-Demand Lessons in the Primary Home Economics Education

Shintaro Murata\* and Kumiko Ohmoto \*\* and Ranko Kishida\*\*\*

### 要 旨

本研究の目的は、学生へのアンケート調査結果の分析を通して、小学校教員免許状授与のための必修科目である「初等家庭科教育法」の非同期型授業としての成果と課題を明らかにし、今後の授業設計の資料を得ることである。アンケート調査は、授業の事前及び事後に実施し、比較・分析を行なった。

結果として、(1)学修内容を精選し、音声付きスライドを作成したことによって高い理解度であった、(2)教育方法に関する理論と実際の小学校家庭科の授業を関連させて解説を行うことで、指導意欲や指導への自信が向上した、(3)受講生自身の生活課題に着目させることで、家庭科の必要性や有用性が向上した、3点が成果であった。課題としては、(1)毎時間の学修課題の質と設定方法について検討する必要性、(2)非同期型授業において学生同士が関わり合う方法について検討する必要性が挙げられた。

キーワード：初等家庭科教育法；小学校家庭科；非同期型授業；理論と実践；アンケート調査

## 1. 研究の背景及び目的

### 1.1. 研究の背景

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、新型コロナウイルス感染症対策本部は全国の小学校、中学校、高等学校、特別支援学校において2020年3月2日より一斉に休校措置を取った(首相官邸, 2020)。文部科学省(2020)の調査によると、2020年4月からの新学期の開始時期を延期した大学は、2020年5月12日の段階で930校(全体の86.9%)であった。また、遠隔授業の実施については708校(全体の66.2%)であった。各大学、各授業では、遠隔授業の持ち方、遠隔授業で用いる各ツールの使用方法の習得などに関する課題が山積していた。

A 大学は2020年4月8日からの新学期開始予定を2020年4月20日とし、その間は休講措置が取られた。また、2020年4月20日から5月11日までの第1回から第3回まではインターネットを活用した授業<sup>(注1)</sup>のみ

実施可能とした(大阪教育大学, 2020)。その後、緊急事態宣言が延長になり、4月22日には引き続き前期のすべての授業をインターネットを活用した授業として行うことと通知した。

開講されている小学校普通免許授与における必修科目「初等家庭科教育法」は9クラス(前期5クラス、後期4クラス)開講されており、学年や専攻もクラスによって異なり、1クラスの受講者数も20~70人と多様である。この講義は毎年複数の教員で担当している。インターネットを活用した授業を計画するに当たって、(1)どの教員が受け持つ授業であっても学修内容などに差異が生じないようにする、(2)対面型の授業からインターネットを活用した授業への移行へ対応した場合であっても一定の学修効果を得る、以上2点の課題設定を行なった。そこで、2020年度前期は授業を担当する教員で協働してインターネットを活用した授業の設計や教材作りに取り組むこととした。従来は、担当する教員が学生のレディネスや受講者数に合わせて各自で

\* 三重大学教育学部

\*\* 大阪教育大学

\*\*\* 滋賀大学教職大学院

表1 事前、事後調査での共通質問項目

質問項目	4件法の得点方法	
小学校家庭科の指導	・小学校で家庭科を教えたいと思いますか？ ・小学校で家庭科の授業をする自信がありますか？ ・小学校の家庭科は必要だと思いますか？	思う、ある、できてきる…4点 やや思う、ややある、 ややできている…3点
小学校家庭科に対する意識	・これまでの家庭科で学んだことを自分の生活に活かすことができているか？ ・これまでの生活の中で、「家庭科を学んでよかった」と感じたことはありますか？	あまり思わない、あまりない、 あまりできていない…2点 思わない、ない、できていない…1点

授業を実施していた。今回は担当する5人の教員が毎週オンラインで遠隔会議を実施し、授業の内容や授業資料の作成、評価方法などを協議し、共通シラバス・共通教材を用いた授業を行うこととした。

また、学生はPC必携により1人1台の端末は所有しているものの、インターネットの通信環境に個人差が予測され、受講者数も多いことから、非同期型授業を前提とした。非同期型授業とは、オンデマンド型授業や非同期型オンライン授業などとも呼ばれており、学習管理システムなどで教員が用意した教材を学生が個別で学習していく形態を指す(東京大学, 2020)。

これまで、小学校普通免許授与における必修科目「初等家庭科教育法」に関する研究としては、模擬授業における学生の相互評価を分析した研究(畦, 2017, 畦, 2018)や模擬授業の自己評価・相互評価の学修効果に関する研究(松本・花輪, 2018)、技能的な指導方法に着目した研究(永田・藤原・潮田, 2015, 西田, 2016)などが確認できる。これらの研究は、基本的には対面での授業を前提としており、学生の個別学習を想定したインターネットを活用した授業に関する授業を設計するための知見についてはほとんど検討されていない。

新型コロナウイルス感染拡大の鎮静化は未だ予測が不可能であり、今後もインターネットを活用した授業の実施を準備する必要性はあるだろう。さらに、今後の授業の在り方については、コロナ禍である2020年度の遠隔授業の経験を踏まえ、すべての授業を対面に戻していくのではなく、インターネットを活用した授業をうまく併用した形で検討されるのではないだろうか。そこで本研究では、非同期型授業を前提とした本授業の成果と課題を検討し、今後の初等家庭科教育法の授業設計に関する資料を得たい。本研究では、受講前後に実施した学生へのアンケート調査を中心に、本授業の成果や課題について検討する。

### 1.2. 研究の目的

本研究の目的は、学生へのアンケート調査結果の分析を通して、小学校教員免許授与のための必修科目である「初等家庭科教育法」の非同期型授業としての成果と課題を明らかにすることである。また、研究結果を基に、今後のインターネットを活用した授業とし

ての「初等家庭科教育法」の授業設計に対する示唆を得ることである。

## 2. 研究の方法

本研究では、授業の前後で学生へアンケートを実施し、学修前後の自己評価などを比較・分析し、本授業の成果と課題について考察を行う。アンケート調査は第1回の授業で事前調査、最終回の第15回に事後調査を行った。アンケートは、Microsoft365のFormsを用いて作成し、採用しているLearning Management SystemであるMoodle内にURLをリンクさせ、オンライン上で回答を求めた。

授業は、2020年4月20日から7月31日の期間に全15コマ実施した。異なる曜日・時間帯に全5クラス開講された。事前調査は、第1回目の授業時2020年4月20, 22, 23, 24日に実施した。事後調査は、第15回の授業時2020年7月27, 29, 30, 31日に実施した。受講者数は全224人。受講した学生は、小学校学校教育・国語教育・理科教育・家庭科教育・音楽教育、特別支援教育を専門とする多様なコースに所属している。調査結果の分析には、事前及び事後調査の両調査に回答した188人を対象とした。有効回答率は、83.9%であった。

事前及び事後調査の共通項目及び得点方法を表1にまとめる。小学校家庭科の指導に関する側面の2項目、小学校家庭科に対する意識の3項目を4件法で調査した。

また、事後調査では表2にあるように、本授業の到達目標を参考に知識の理解度の6項目を4件法で調査した。後述するが、この6項目は本講義の到達目標の知識部分を参考に作成した。

さらに、アンケート調査では、全15回の非同期型授業の感想についても自由記述で回答を求めた。事前及び事後調査で共通して行う質問については、得点が高いことが、意欲や自信などの自己評価が高いと評価されるように得点化する。各項目の得点の平均値、標準偏差を算出し、対応のあるt検定で有意差について検討する。理解度については、平均値、標準偏差を算出する。自由記述については、記述を分類し、各カテゴリー

の人数を集計し、考察を行う。

なお、本アンケートについては、事前及び事後調査での比較を行うため、学籍番号の記入を求めたが、学生に対しては、授業の成績に反映されないこと、今後の初等家庭科教育法の授業設計に関する資料とすること、の2点を調査時に説明した。

質問項目	4件法の得点方法
家庭科教育の歴史や理念	
初等教育において家庭科が果たす役割	できた…4点
小学校家庭科で扱う内容	ややできた…3点
小学校家庭科で扱う指導方法・評価	あまりできなかった…2点
生活課題に即した教材研究	できなかった…1点
児童の実態を踏まえた授業の構成	

### 3. 非同期型授業の概要

#### 3.1. 非同期型授業の授業方法

表3は、各授業の学修目標、学修内容、非同期型授業での資料の種類、学修課題、教員と学生との関わり方を一覧にしたものである。

A大学ではLearning Management Systemとして、Moodleを活用している。Moodleの活用として、仮想クラスルームのハブが想定されており(尾崎, 2020)、資料や課題の提示、課題の回収、学生との双方向でのやりとりが可能である。2020年4月20日からインターネットを活用した授業実施が暫定的に通達されていたため、第1回から第3回までの3回の授業は、指定したテキスト<sup>注2)</sup>を読み、その日の課題をMoodle上に提出させた。第12回(課題作成日)を除く第4回から第15回までは、音声付きのスライドを用意した。スライドは、Office Power Pointを使用し、「スライドショーの記録」機能を用いて、各スライドに音声をつけた。学生へは、スライドショー形式(.ppsx)に変換して提示した。音声付きスライド資料は、試聴時間が長ければ長いほど途中で集中力が途切れ、脱落する可能性を予想し、概ね20分程度に内容を精選し作成した。なお、本授業ではネット環境が各家庭によって差があることを想定し、音声付きスライドとは別に音声の台本をつけたスライドのPDF形式の資料(Power Pointのノート)も同時に提示した。

次に、学生の課題に対するフィードバックや課題遂行における悩みなどを募るため、いくつかコミュニケーションがとれるように工夫した(表3「教員と学生との関わり方」の列)。第7回は提出課題に対して教員側がコメントを返信できる形式で課題設定をした。第10回、第11回は質問箱をMoodle上に設置し、課題作成に関する疑問点などを募集し、教員が随時回答した。その掲示板は誰でも閲覧できるため、学生は自分と同じ疑問点が掲載されていた場合は、その文章から理解

できると考えた。第14回は、第12回終了後に回収したデジタルコンテンツから特筆すべきコンテンツをいくつか紹介し、課題のフィードバックとした。

#### 3.2. 学修内容及び展開

##### 3.2.1. 事前調査結果を基にした授業設計

村田ら(2021)は、本研究で対象としている「初等家庭科教育法」の授業を受講する学生に対して授業前に調査を行い、その結果から授業の展開を検討している。調査項目は、表1にある家庭科の指導に対する意識、小学校家庭科に対する意識について、の2側面に加えて、これまでの家庭科の学習経験などについて調査した。結果として、次の3点を明らかにしている。(1)家庭科の指導意欲や指導への自信は低い傾向にあった、(2)調理実習や被服実習の経験や記憶は高い傾向にあった、(3)指導方法や評価方法に対する学習ニーズが高い傾向にあった。事前調査の結果を踏まえて、本授業では次の点に配慮し、授業を構成した。まず、(1)の結果に対しては、指導への不安を解決するために、実践事例を多く紹介し、具体的な指導のイメージを掴むことができるように工夫した。(2)の結果に対しては、小学校家庭科の内容は調理実習や被服実習だけではなく、生活を幅広く扱うことを理解させるため、実践事例は幅広い学習内容を理解できるように工夫した。(3)の結果については、どの教科でも汎用性のある指導方法や評価方法など、一般的な教育方法を小学校家庭科の教科の特性を踏まえて解説するようにデザインした。

##### 3.2.2. 理論と実践の往還

先述したように、学習内容は教育全般に係る授業方法などの専門的知識を解説し、それらの理解を踏まえた上で、小学校家庭科の特性を踏まえた事例の紹介や小学校家庭科を指導する具体的な場面を取り上げ、小学校家庭科の指導をイメージしやすくなるように工夫した。例えば、第4回の授業では、始めに「カリキュラムとは」「カリキュラム・マネジメントとは」「カリキュラム・マネジメントに必要な要素とは」について、教育方法的な立場から解説を行った。その後、附属小学校の事例を基に、学校行事や他教科との関連を図った年間指導計画例について解説する。また、教科横断的な学習内容を扱う授業例についても紹介した。このように、理論と実践とが往還されるように学修内容を検討し、授業資料を作成した。

##### 3.2.3. 学修の展開

大本(2012)は、関西圏大学で開講されている小学校普通免許授与における必修科目である「初等家庭科教育

表3 授業内容一覧

時数	学修目標	学修内容		資料の種類	学修課題	教員と学生との関わり方
		教育全般に関する専門的知識	小学校家庭科の指導に関する知識			
1	家庭科教育に求められる意義と特性について理解する	・21世紀型能力 ・DeSeCoのキーコンピテンシー ・教育におけるSDGs	・DeSeCoのキーコンピテンシーと家庭科の目標との関連 ・新学習指導要領における家庭科の学習過程 ・家政学と家庭科の関連 ・SDGsと家庭科との関連 ・家庭科で培う資質・能力(課題解決力、実践力)	テキスト資料 <sup>1)</sup>	資料を読んだ上で、家庭科について新しく気づいたことを記入	事前調査
2	家庭科の学習内容を理解する	・新しい学力観 ・新学習指導要領における資質・能力	・家庭科の見方・考え方 ・家庭科の目標・内容構成・配慮事項	テキスト資料 <sup>1)</sup>	資料を読んだ上で、あなた自身がこれまで小・中・高等学校で学んだ家庭科の学習内容について整理し記入	
3	新学習指導要領(家庭)の記述内容を理解する	・学習指導要領総則	・小学校学習指導要領家庭(目標、見方・考え方、内容、配慮事項)	小学校学習指導要領解説 家庭編	・新小学校学習指導要領家庭の内容を整理するワークシートを提出 ・あなたはこれまでの自粛生活の中でどのような生活課題がありましたか	
4	家庭科教育の充実を図るカリキュラムについて理解する	・カリキュラム ・カリキュラムマネジメント ・カリキュラムマネジメントに必要な要素	・小学校家庭科におけるカリキュラムマネジメント(附属小学校の事例)	スライド資料(音声付き)	家庭科の授業を充実させるために、必要だと思うことを記入	
5	家庭科の題材計画と生活課題について理解する	・題材設計の方法	・小学校家庭科教科書に見る題材設計 ・生活課題を見つける方法 ・問題解決的な学習(附属小学校の事例)	スライド資料(音声付き)	事例として紹介した問題解決学習としての良い点を記入	
6	家庭科の教材(デジタルコンテンツを含む)を理解する	・教材、教具 ・教材開発の視点(発達段階やプライバシーに配慮など) ・ICT機器の活用(デジタルコンテンツ)	・調理実習、被服実習での見本 ・小学校家庭科の実験実習 ・小学校家庭科におけるICT機器の活用 ・デジタルコンテンツの紹介	スライド資料(音声付き)	家庭科の学習を充実させる教材について、わかったことを記入	
7	学習指導案の作成方法を理解する	・学習指導案作成の意義 ・学習指導案作成方法	・小学校家庭科の学習指導案事例	スライド資料(音声付き)	学習指導案作成に当たってポイントとなる点について記入	課題に対するフィードバック
8	家庭科の評価について理解する	・学習評価の基本的な考え方 ・観点別学習状況の評価 ・学びが深まる評価の意義と方法(ポートフォリオ評価、パフォーマンス評価など)	・小学校家庭科における学習評価	スライド資料(音声付き)	本時の学習評価も含め、これまでの授業を振り返り、理解しづかったこと、印象に残っていることなどをまとめる(授業の質問・感想以外に作成予定の教材に関する質問も可)	
9	実践的・体験的学習(実習など)に関する授業設計を理解する	・学習指導案の作成方法	・実践的・体験的な学習活動 ・調理実習、被服実習の配慮事項 ・実践的・体験的な学習活動の計画	スライド資料(音声付き)	作成した学習指導案を提出	
10	デジタルコンテンツを用いた授業設計について理解する	・GIGAスクール構想 ・コロナウイルス感染拡大禍の学校現場の状況 ・オンライン授業の方法 ・デジタルコンテンツの作成方法	・学生、児童の生活課題 ・小学校家庭科におけるデジタルコンテンツ(コロナ禍で作成されたコンテンツ紹介)	スライド資料(音声付き)	作成しようと思っているデジタルコンテンツの概要を記入	質問箱にてデジタルコンテンツや学習指導案作成に関するQ&A
11	家庭科のデジタルコンテンツの作成(質問受付)		なし <sup>2)</sup>	課題提出方法に関するスライド資料(音声付き)	質問がある受講生は掲示板に記入	質問箱にてデジタルコンテンツや学習指導案作成に関するQ&A
12	デジタルコンテンツを用いた授業案の作成(質問に対するコメント返却・学習指導案作成)		なし <sup>2)</sup>	なし <sup>2)</sup>	作成したデジタルコンテンツ、学習指導案を提出	
13	教材及び学習指導案の提出 家庭科の歴史について理解する	・教育制度	・家庭科の変遷 ・家庭科で育てたい力 ・未来世代の生活の質を向上させる家政学	スライド資料(音声付き)	本時の講義の感想を記入	
14	教材を評価する		・作成されたデジタルコンテンツの紹介	スライド資料(音声付き)	本時の講義の感想を記入	デジタルコンテンツや学習指導案の一部をフィードバック
15	授業の振り返り 小テスト、授業後のアンケート		・本授業の振り返り	本授業の学修内容の振り返りスライド資料(音声付き)	テキストの授業実践を読み、どの実践が良いと思ったか、選んだ授業の概要と選んだ理由を記入	事後調査

1) 限定的なインターネットを活用した授業であったため、指定テキストを提示している  
2) 課題作成日及び事前に募集した質問に対する回答をするため学修内容や教材は「なし」となっている

法」のシラバス分析及び授業者のヒアリング調査を行い、初等家庭科教育法で指導したい学修内容を11項目に整理している。本授業では、非同期型授業を採用しているため、「6.模擬授業」の1項目のみ実施は難しいと考えた。学修の展開を検討する際には、「6.模擬授業」を除く10項目との関連を確認し、総合的な学修内容と

なるように授業設計を工夫した(表4)。

対面の模擬授業の実施が困難なことが予想されたため、本授業の全体的な学修の展開としては、最終的な課題として学習指導案作成及びデジタルコンテンツの作成を課し、それぞれ3段階で学修できるように工夫した。まず学習指導案については、第7回で学習指導

案の作成方法について詳細に解説し、9回では実践的・体験的な学習に関する授業設計の解説をし、課題として学習指導案の略案を作成させ、第12回で最終課題として学習指導案を提出させた。デジタルコンテンツの作成については、第6回で教材・教具の一環としてデジタルコンテンツの事例を多く紹介し、第10回で現在の学校現場の状況を踏まえて、デジタルコンテンツの様々な作成方法を解説し、第12回でデジタルコンテンツを提出させた。

表4 本授業と大本(2012)の11項目との関連

大本(2012) 初等家庭科教育法で指導したい学修内容	本授業との関連 (数字は時数)
1.家庭科教育の意義とねらい	1, 13
2.学習指導要領(家庭)の目標と内容理解	1, 2, 3, 13
3.現代の子どもの生活実態と生活課題	1, 4, 5, 10
4.題材の指導計画の構想	4, 5, 10
5.学習指導案の作成	7, 9, 13
6.模擬授業	
7.実験・実習(調理実習・手縫い実習)	9
8.安全指導, 家庭科室の使い方、管理	9, 11
9.4つの領域の知識理解, 教材研究	6, 9, 10, 11, 13
10.学習評価	8, 14
11.実際の小学校家庭科の授業を知る	4, 5, 6, 7

### 3.3. 授業の目標及び評価方法

本授業の到達目標は、従来実施されてきた初等家庭科教育法と同様に以下の4点を設定した。(1)家庭科教育の歴史と理念や初等教育において家庭科が果たす役割を説明することができる、(2)小学校家庭科において扱う学習内容と指導方法・評価について説明することができる、(3)生活課題に即した教材研究ができる、(4)児童の実態を踏まえた授業を構成し、提案することができる、の4点である。(1)(2)は初等家庭科教育に関する専門的な知識に関する項目。(3)(4)は、専門的知識に裏づけされた実践力に関する項目である。

授業の評価方法は、授業への取り組み状況(オンラインコメント等)、ワークシート、デジタルコンテンツに基づく指導案、小テストとした。参加状況(オンラインコメント等)とは、各授業で提示した資料に対する考えや感想などをまとめ、オンラインでコメントした内容を評価の対象としたものである。ワークシートとは、第3, 9回の授業で課した課題である。第3回では、平成29年度告示小学校学習指導要領家庭科についての要点を整理するワークシートの完成を課した。第9回では、実践的・体験的な学習活動に関する小学校家庭科の授業や学習指導案の作成に関する解説を受けた上で、実践的・体験的な学習活動に関する学習指導案の略案を作成する課題である。デジタルコンテンツに基づく指導案とは、本授業内において全体的に提示しているパフォーマンス課題を前提とした課題である。基本的には、授業日の前週に教材をMoodle上にアップし、約1週間程度の視聴期間、課題提出期間を設けた。

### 3.4. 最終課題

最終課題は、デジタルコンテンツの作成及び学習指導案とした。新型コロナウイルス感染拡大に伴い、学校教育現場では有事な状況となった。2020年3月2日より全国的に休校措置がとられ、その間教員は児童・生徒の家庭学習のため、デジタルコンテンツを作成し、様々な方法で配信し、少しでも学びを止めない工夫がなされていた。小学校で家庭科を指導する教員の立場でのリアルな状況を想定し、パフォーマンス課題を設定した。パフォーマンス課題とは、「さまざまな知識やスキルを総合して使いこなすことを求めるような複雑な課題(西岡, 2015)」とされている。パフォーマンス課題のシナリオは、「あなたは小学校の家庭科を担当しています。現在の緊急事態宣言を受けて、家庭で自粛中の児童に向けて家庭科を学習することができるデジタルコンテンツを作成しなさい。なお、通常に戻った際にも授業で使用できることを想定し、そのデジタルコ

表5 各質問項目の事前及び事後比較

質問項目		N=189	Mean.	S.D.	t検定
小学校家庭科 の指導	小学校で家庭科を教えたいと思いますか?	事前	2.80	0.79	**
		事後	3.26	0.67	
	小学校の家庭科は必要だと思いますか?	事前	3.84	0.44	*
		事後	3.93	0.34	
小学校家庭科 に対する意識	小学校で家庭科の授業をする自信がありますか?	事前	2.06	0.65	**
		事後	2.56	0.65	
	これまでの家庭科で学んだことを自分の生活に活かすことができますか?	事前	3.02	0.72	**
		事後	3.20	0.56	
これまでの生活の中で、「家庭科を学んでよかった」と感じたことがありますか?	事前	3.38	0.69	**	
	事後	3.68	0.55		

\*\*  $p < .01$ , \*  $p < .05$

ンテンツを用いた授業案も併せて作成すること。」である。主に第1回から第10回の授業までの学修内容で習得した小学校家庭科の指導方法に関する知識やスキルを総合的に活用して解決できる課題とした。第11回の授業で Moodle 上でのデジタルコンテンツの提出方法について解説し、デジタルコンテンツは約5分で作成するように指示した。なお、本報では学生のアンケートへの回答を分析し成果と課題を明らかにするため、最終課題への取り組みの分析については次報へ譲ることとする。

#### 4. 質問項目への回答結果

学生への事前調査及び事後調査をもとに、家庭科や家庭科を指導することに対する意識の変容、知識の理解度、自由記述から本授業の成果や課題について検討する。

##### 4.1. 家庭科の指導や教科に対する意識の変化

事前調査及び事後調査で同様の質問項目を比較した結果を表5にまとめた。結果として、すべての項目で事前調査に比べて事後調査で有意な差が確認された。

「小学校家庭科の必要性」以外の4項目では、高い水準で有意差が確認された。

指導意欲や家庭科の有用性に対する意識などが高まった要因については、次章以降での自由記述の分類結果と合わせて考察する。

##### 4.2. 各学修内容の理解度

表6に学修内容全6項目の理解度をまとめる。結果として、最も低い理解度は「家庭科教育の歴史や理念」の3.34、最も高い理解度は「初等教育において家庭科が果たす役割」の3.67であり、どの学修項目も高い理解が確認された。また、「あまりできなかった」「できなかった」と低い理解度を回答した学生は、どの学修項目においても10人前後であり、多くの学生が高い理解度を示したことになる。理解度に係る要因についても、次章以降での自由記述の分類結果と合わせて考察する。

表6 学修内容の理解度

学修項目	Mean.	S.D.
家庭科教育の歴史や理念	3.34	0.57
初等教育において家庭科が果たす役割	3.67	0.49
小学校家庭科で扱う学習内容	3.55	0.58
小学校家庭科で扱う指導方法・評価	3.41	0.59
生活課題に即した教材研究	3.48	0.61
児童の実態を踏まえた授業の構成	3.35	0.65

N=189

#### 5. 自由記述の分類結果

事後アンケート調査では、「前期全オンライン授業となった初等家庭科教育法の感想を自由に書いてください。(よかった点、うまくいかなかった点など)」と自由

記述での感想を求めた。自由記述を分類し、(1)非同期型授業の効果、(2)授業内で課した学修課題について、(3)本授業に対する課題、の3つの視点で整理できた。3つの視点で分類された記述と前章で整理したアンケート調査の結果を併せて、成果や課題について考察する。

##### 5.1. 非同期授業の効果

授業の成果として、「スライドだけではなく、先生の音声説明もついていたので、授業内容が非常に分かりやすかったです」「毎回丁寧に説明付きのスライドでしたので、わかりやすかったと思います」のように、スライド資料に音声をつけることで、学修内容がより分かりやすくなったと記述した学生は32人確認できた。音声付きスライドにすることで、資料を読むだけではなく、聴くこともできるため理解を促すことができたことと推察される。実際に、表6の学修内容の理解度において、どの項目も多く学生の理解度が高かった一つの要因であると推察される。学生はコロナウイルス感染拡大以前には、日常的に対面で授業を受講していた。対面での授業経験が多い学生が、本授業の音声付きスライドを肯定的に捉えている点からも本授業の資料の理解しやすさは担保されたのではないだろうか。

次に、「オンライン授業だからこそ何度も授業を見返したり、自分のペースに合った時間で受けることができたので良かったと思います」「自分のタイミングで授業を受けられたり授業の内容で聞き逃したりすることがない部分はプラスだったと思います」と、非同期型授業そのものの良さを記述した学生は31人確認できた。他の授業では、Zoomなどを用いた同期型授業も開講されており、空いている時間などを活用して自らのペースで学習できる非同期型授業そのものに対する肯定的な意見であると言える。

また、本授業では、ネットワークの接続環境に個人差があることを想定し、音声の台本をつけたスライドのPDF形式の資料(Power Pointのノート)も同時に提示した。「パワーポイントのスライドが上手く再生されなかったもので、PDFで字幕付きのものを用意してくださったのもとてもよかったです」「資料もPDFによる配布でネット環境の悪い人でも簡単に確認することができました」と、PDFの資料を肯定的に記述した学生は9人確認できた。ネット環境の不具合が生じた場合の対処方法について事前に準備したことも肯定的に捉えられた。

##### 5.2. 授業内で課した学修課題について

自由記述より毎時間の学修課題及びデジタルコンテンツを含む最終課題に対する意見が確認された。

本授業では、毎時間の学修課題として、学んだことを整理する(例えば、第4回は、「家庭科の授業を充実さ

せるために、必要だと思うことを記入)など簡易的な課題を課した。毎時間の学修課題に対して、「課題の中で自分の考えなどを書く機会が多かったため、自分の考えを整理することができた点がよかった」と課題自体を肯定的に捉える回答や「課題の提示方法や期限などが統一性があり、わかりやすかったです。当日の19時までという期限のおかげで、貯めることなくその時間にきちんと受けることができました」と課題の設定方法に関して肯定的な記述が確認された。このように肯定的な意見を記述した学生は22人いた。一方で、「課題が多く、常に新しい情報が更新されるので、細かい確認が欠かせなかったので疲れました」「提出課題が短かったので、課題を提出することで精一杯になり、提出する課題の内容が薄っぺらくなってしまった」のように、課題内容や課題設定に対して否定的な記述をした学生は29人確認された。同じ課題であっても、肯定的に捉える学生と否定的に捉える学生は二分されていると推察される。

次に、デジタルコンテンツを含む最終課題に対する回答として、「デジタルコンテンツや指導案を、これまで学んだことを生かして作成できたのはよかったことだと思います」「このような状況ということを手にとりてデジタルコンテンツを作成できたことはとても良かったです」と最終課題を解決する意義を見出している学生は26人確認できた。他方、「デジタルコンテンツの制作に時間がかかった」「デジタルコンテンツを作り、それを学習指導案に組み込むのが難しかった」のように、最終課題への困難感を記述した学生は15人確認された。毎時間の学修課題と同様に、最終課題への捉え方も二分していた。特にパフォーマンス課題に困難感を抱えている学生が多いことから、発展的な課題の内容や授業の持ち方についての工夫と改善が必要であることが示唆された。

### 5.3. 本授業に対する課題

PCを用いて受講する際に、「音声付きスライドショーだと音声の途中で勝手に次のスライドに進んで次の音声が始まるというようなことが頻繁に起こり、受講しにくかった」「スライドの音声は、スライド一枚一枚の最後で途切れることが多かった」のように、パソコンやアプリケーションなどの不具合によって資料がうまく閲覧できなかったと回答した学生は20人いた。スライドのPDF形式の資料(Power Pointのノート)を提示し、音声入りの資料が閲覧できない場合の補助資料も併用していたが、インターネット環境などに左右されない非同期型授業の資料開発が課題の一つである。

また、本授業だけではなく、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、前期がすべてインターネットを活用した授業となったことから、他者との交流や対

面授業への嘱望に関する回答が見られた。「周りの進捗状況が分からず、いつもなら、すぐ先生に聞けるのという気持ちや、友だちと相談したいという気持ちになりました」「友だちとの意見を交流する機会がなかったため、さまざまな意見をきくことや自分では気付かなかったという新しい発見がなかったことが残念でした」と、他者との対話で学修を深められなかった点に課題を表現している学生は20人いた。「対面だともっとおもしろい授業だっただろうなと思いました」「対面での模擬授業ができなかったことが残念です」のように、対面授業を希望する学生は26人いた。学生は、対面授業と本授業の非同期型授業とを比較し、対面授業の効果を再認識していることが示唆された。

非同期型授業によって自分のペースで学修できた学生が多い一方、「実際に学校に行かないので、授業があることを忘れたり、後でやろうが増えたのは良くなかったと思いました」「課題をこなしても達成感を感じることが出来ず、学習に身が入らない時期があった」など、自己調整や学習意欲に関する記述している学生は8人確認された。本授業に限らず、インターネットを活用した授業全体を通して、学生の自己調節力やメタ認知力などのいわゆる非認知的なスキルを育成することは課題の一つであると言える。

## 6. 本授業の学修成果及び課題

### 6.1. 学修の成果

アンケート調査の質問項目及び自由記述の結果を合わせて、本授業の学修成果や課題について考察する。

まず、学修の成果については次の3点に整理できる。1点目は、各学修内容の理解度がいずれの項目においても高い要因として、資料の性質が挙げられる。授業担当者で何度も学修内容を吟味し、内容を精選し、加えて理解しやすくするために音声をつけるなど、教員側が時間をかけてスライド資料を準備した。その結果、理解度に繋がり、わからない箇所がある場合は何度も確認する学生の姿も見られた。本授業のスライド資料は、視聴時間を20分程度に統一したが、何度も繰り返し視聴することができる内容や時間であったと言える。

2点目は、指導意欲や指導の自信が向上した要因として、教育方法に関する理論を理解した上で、実践的なデジタルコンテンツを含む学習指導案を作成することを課題としたことによって、より具体的な授業の姿をイメージしやすくなったことが挙げられる。本授業では、小学校家庭科の指導方法について、どの教科でも汎用性のある指導方法や評価方法など教科教育法としての基本を学ばせ、家庭科の実践事例を紹介しながら具体の解説を行う授業の構成となっている。例えば、第4回の「カリキュラム・マネジメント」、第5回の「題

材計画の立て方」, 第6回の「教材開発」第7回の「学習指導案の立て方」のようなテーマについて一般的な授業づくりの理論を解説した上で, 家庭科の授業への具体的な応用の仕方を授業実践例と結びつけて解説するといった, 理論と実践を往還する構成である。学生は, 理論とその理論に基づいた実践を解釈することで小学校家庭科の指導に関して具体的にイメージしながら理解し, 結果として指導の自信へとつなげたと推察できる。特に家庭科以外の他教科を専攻する学生に向けて初等家庭科教育法では, 苦手意識を克服して自信を持って指導に臨む意欲を持たせることを重視した結果であると言える。

3点目は, 家庭科の必要性や有用性が高まった要因として, 自身の生活課題に向き合わせた点が挙げられる。第3回の授業では, 「あなたはこれまでの自粛生活の中でどのような生活課題がありましたか」という問いに対して自らの課題を記述させ, 記述結果をテキストマイニングし, 第10回の授業で, パフォーマンス課題に対する課題解決の方法について解説する中で, 学生自身が抱えている生活課題について紹介した。図1に見られるように「自粛」「生活習慣」「生活リズム」「規則正しい」「食事」「自炊」「バランス」など, 生活習慣や食事のバランスが崩れていることが見えてきた。これらの生活課題は小学校の家庭科の学習内容と大きく関連しており, コロナ禍においての小学生が抱えている現実の課題とも関連していることに気付くことができた。学生は, 今回のコロナ禍において家庭で自粛する期間が長期化し, 家庭で過ごす時間が増えたことで, 家庭科の学習は家庭生活と深く関連していることを実感的に理解し, 生活をよりよくするために必要な教科であることを, 自らの生活と関連させて, より深く認識することにつながったのではないだろうか。自身の生活課題に着眼した課題解決学習を中心とする教科の特色を学生に実感的に理解させることができた点は, コロナ禍の自粛生活を余儀なくされた結果でもあったと考える。

## 6.2. 本授業の課題

次に本授業の実践上の課題について次の2点が明らかになった。1点目は, 課題の量や時間設定について検討する必要性である。学生は, 2020年度前期に開講された授業は, すべてインターネットを活用した授業であるため, 同期型及び非同期型の授業が多様に実施された。また, 「課題量が異常に多い授業もあり, そのことの兼ね合いが難しく, 全部期限内に提出していても常に課題に追い詰められている状況だった」との自由記述にもあるように, 他の授業で出された課題の締め切りにも追われたため, 慢性的に課題を抱えている現場

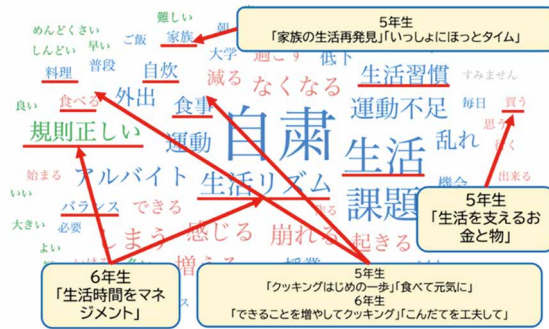


図1 学生の生活課題と  
小学校家庭科の関連スライド注3)

が伺える。そこで, 今後は学生から他の授業における課題量や提出時期などを事前に調査し, 課題を課す時期などについて検討することによって, 課題の質も高まることが期待できると考える。

2点目は, 対話的な学修場面の充実である。今回, 課したパフォーマンス課題は発展的な課題であるため, 対話的な学修によってさらに学びが深まることが予想される。しかし今回は, 非同期型授業であったため, 教員と学生間での関わりは確保した(例えば, 質問箱など)ものの, 例えば課題に取り組む過程や成果物を見て協議するなど, 学生同士がやり取りする場については希薄であった。学生同士が疑問点を投げ掛け, 議論できる場を設定する必要性が明らかとなった。以上2点については, 非同期型授業における実践上の課題である。

## 7. 今後の研究課題

今後の研究課題は次の3点である。今回の授業では, 担当する教員の協働体制で授業設計や授業準備を行うことによって成果が確認された。一方で, そのための時間捻出にも苦労した。持続可能な方法で授業設計を行い, 教材や情報を共有する環境について検討することが1点目の課題である。

2点目は, 本研究では分析対象としていない本授業の最終課題であるパフォーマンス課題の成果についても分析し, 総合的な授業の学修効果を明らかにすることである。

3点目は, インターネットを活用した授業として, 非同期型授業の他にも, 同期型授業(Zoom や Google meet などのアプリケーションを用いた同時双方向型授業), ハイブリット型授業(対面と同期型授業を併せた形式)などの種類がある。今後は, 本研究で明らかとなった改善点等を踏まえて, 効果的なインターネットを活用した授業の在り方について検討したい。



## 注

- 1) A 大学では同期型及び非同期型授業などを含めて、「インターネットを活用した授業」としている。本稿では、インターネットを活用して行う授業(同期型, 非同期型)の総称を「インターネットを活用した授業」とする。
- 2) 授業で指定したテキストは、『大本久美子(2020)シリーズ・新時代の学びを創る 9 家庭科授業の理論と実践, 大本久美子編著, 京都: あいり出版』を使用した。
- 3) 本授業では、『鳴海多恵子ら(2020)わたしたちの家庭科 5・6, 開隆堂』をテキスト指定しているため, 図 1 に示した題材名はその教科書と関連している。

## 引用文献

松本歩子, 花輪由樹.(2018). 実践的指導力育成に向けた初等家庭科教育法の授業実践: 模擬授業実践の経過と学生の相互評価・自己評価からの考察, 平安女学院大学研究年報, 18, pp.53-62.

文部科学省.(2020). 新型コロナウイルス感染症対策に関する大学等の対応状況について.([https://www.mext.go.jp/content/202000513-mxt\\_kouhou01-000004520\\_3.pdf](https://www.mext.go.jp/content/202000513-mxt_kouhou01-000004520_3.pdf), 2021.3.5.最終アクセス).

村田晋太郎, 大本久美子, 岸田蘭子, 南千里, 和田博子.(2021). 全オンライン授業を実施するための初等家庭科教育法のシラバス提案: 学生の実態把握を通して, 大阪教育大学紀要人文社

会科学・自然科学, 69, pp.247-256.

永田智子, 藤原容子, 潮田ひとみ.(2015). ミシン使用の技能と指導の自信を高める初等教員養成課程『初等家庭科教育法』の工夫, 日本家庭科教育学会第 58 回大会研究発表要旨集, pp.146-147.

西田順子.(2016). 家庭科教育法における製作活動の教育的意義, 樟蔭教職研究, 1, pp.79-86.

西岡加名恵.(2015). 教育実践における教育評価の位置づけ, 西岡加名恵・石井英真・田中耕治(編), 新しい教育評価入門-人を育てる評価のために, 東京: 有斐閣, p.10.

大本久美子.(2012). 教員養成における教科教育の在り方に関する研究: 初等家庭科教育法と教科内容論の授業内容の検討, 大阪教育大学紀要第 V 部門, 60(2), pp.45-55.

大阪教育大学.(2020). 令和 2 年度前期授業日程について(<https://osaka-kyoiku.ac.jp/faculty/kyomu/r2zenki4022.html>, 2021.3.8.最終アクセス).

尾崎拓郎.(2020). インターネットを活用した授業実施にむけた支援活動, 教育システム情報学会, 37(4), pp.1-11.

首相官邸.(2020). 新型コロナウイルス感染症対策本部(第 15 回)([https://www.kantei.go.jp/jp/98\\_abe/actions/202002/27corona.html](https://www.kantei.go.jp/jp/98_abe/actions/202002/27corona.html), 2021.3.8.最終アクセス).

東京大学.(2020). オンライン授業・Web 会議ポータルサイト@東京大学.([https://utelecon.github.io/faculty\\_members/](https://utelecon.github.io/faculty_members/), 2021.3.8.最終アクセス).

畦五月.(2017). 初等家庭科教育法における模擬授業での相互評価からみた授業実践力について, 就実論叢, 46, pp.221-232.

畦五月.(2018). 初等家庭科教育法における模擬授業での相互評価からみた授業実践力について II: 模擬授を二度実践した場合, 就実論叢, 46, pp.273-286.